

講義コード	D360100101	科目ナンバリング	136F202
講義名	博士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	田上 竜也		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

### 授業概要

博士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

### 到達目標

博士論文を完成できる

### 授業内容

実施回	内容
第1回	論文の書き方を口頭により指導
第2回	論文の書き方を口頭により指導
第3回	論文の書き方を口頭により指導
第4回	論文の書き方を口頭により指導
第5回	論文の書き方を口頭により指導
第6回	中間発表の準備
第7回	論文の書き方を口頭により指導
第8回	論文の書き方を口頭により指導
第9回	論文の書き方を口頭により指導
第10回	論文の書き方を口頭により指導
第11回	論文の書き方を口頭により指導
第12回	論文の書き方を口頭により指導
第13回	論文の書き方を口頭により指導
第14回	論文の書き方を口頭により指導
第15回	前期のまとめ、レポート
第16回	論文の書き方を口頭により指導
第17回	論文の書き方を口頭により指導
第18回	論文の書き方を口頭により指導
第19回	論文の書き方を口頭により指導
第20回	論文の書き方を口頭により指導
第21回	論文の書き方を口頭により指導
第22回	論文の書き方を口頭により指導
第23回	論文の書き方を口頭により指導
第24回	論文の書き方を口頭により指導
第25回	論文の書き方を口頭により指導
第26回	論文の書き方を口頭により指導
第27回	論文の書き方を口頭により指導
第28回	論文の書き方を口頭により指導
第29回	論文の書き方を口頭により指導
第30回	論文の書き方を口頭により指導

### 授業方法

院生の提出物の添削や質疑応答

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360100101	科目ナンバリング	136F201
講義名	修士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	田上 竜也		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

### 授業概要

修士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

### 到達目標

修士論文を完成できる

### 授業内容

実施回	内容
第1回	論文の書き方を口頭により指導
第2回	論文の書き方を口頭により指導
第3回	論文の書き方を口頭により指導
第4回	論文の書き方を口頭により指導
第5回	論文の書き方を口頭により指導
第6回	中間報告の準備
第7回	論文の書き方を口頭により指導
第8回	論文の書き方を口頭により指導
第9回	論文の書き方を口頭により指導
第10回	論文の書き方を口頭により指導
第11回	論文の書き方を口頭により指導
第12回	論文の書き方を口頭により指導
第13回	論文の書き方を口頭により指導
第14回	論文の書き方を口頭により指導
第15回	前期のまとめ、レポート
第16回	論文の書き方を口頭により指導
第17回	論文の書き方を口頭により指導
第18回	論文の書き方を口頭により指導
第19回	論文の書き方を口頭により指導
第20回	論文の書き方を口頭により指導
第21回	論文の書き方を口頭により指導
第22回	論文の書き方を口頭により指導
第23回	論文の書き方を口頭により指導
第24回	論文の書き方を口頭により指導
第25回	論文の書き方を口頭により指導
第26回	論文の書き方を口頭により指導
第27回	論文の書き方を口頭により指導
第28回	論文の書き方を口頭により指導
第29回	論文の書き方を口頭により指導
第30回	通年のまとめ、レポート

### 授業方法

院生の提出物の添削や質疑応答

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと(一時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360200101	科目ナンバリング	136F101
講義名	フランス語学特殊研究(大学院)		
英文科目名	Studies in the French Language		
担当者名	松村 剛		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 4時限 仏文院生室		

### 授業概要

フランス語の歴史的、地域的な広がりと多様性を理解していただくことを目的とします。そのために必要な道具を紹介し、それらを批判的に活用する練習をしていただきます。論文作成などのために知っておくべき基本的な研究倫理についても学んでいただきます。

### 到達目標

履修者各自の研究対象と関連させながら、フランス語の歴史的、地域的な広がりと多様性を理解していただくことを目標とします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	概説。
第2回	Le Petit Robert の特徴と問題点。
第3回	Le Petit Robert の批判的読解演習。
第4回	Le Tresor de la Langue francaise の特徴。
第5回	Le Tresor de la Langue francaise の問題点。
第6回	Le Tresor de la Langue francaise の批判的読解演習。
第7回	Dictionnaire des onomatopées の特徴と問題点。
第8回	Dictionnaire des onomatopées の批判的読解演習。
第9回	Dictionnaire des jurons の特徴と問題点。
第10回	Dictionnaire des jurons の批判的読解演習。
第11回	Dictionnaire des regionalismes de France の特徴と問題点。
第12回	Dictionnaire des regionalismes de France の批判的読解演習。
第13回	Franzosisches Etymologisches Worterbuch の特徴と問題点。
第14回	Franzosisches Etymologisches Worterbuch の批判的読解演習。
第15回	総括。
第16回	Le Bon Usage の特徴と問題点。
第17回	Le Bon Usage の批判的読解演習。
第18回	Littre の特徴と問題点。
第19回	Littre の批判的読解演習。
第20回	Huguet の特徴と問題点。
第21回	Huguet の批判的読解演習。
第22回	Dictionnaire du Moyen Francais の特徴と問題点。
第23回	Dictionnaire du Moyen Francais の批判的読解演習。
第24回	Godefroy の特徴と問題点。
第25回	Godefroy の批判的読解演習。
第26回	Tobler-Lommatzsch の特徴と問題点。
第27回	Tobler-Lommatzsch の批判的読解演習。
第28回	Anglo-Norman Dictionary の特徴と問題点。
第29回	Anglo-Norman Dictionary の批判的読解演習。
第30回	総括。

### 授業方法

講義と演習。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前に指示した箇所を読んでおくこと(約2時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):80%(積極的に授業に参加すること。) レポート:20%

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生のレポートその他は授業内でコメントし、授業の内容に反映させる。

#### 教科書コメント

授業時に指示する。

#### 参考文献コメント

授業時に指示する。

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360202101	科目ナンバリング	136F103
講義名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	ル・クレジオ研究		
英文科目名	Studies in French Literature		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 3時限 仏文院生室		

### 授業概要

現代フランス文学を代表するル・クレジオの『砂漠』(1980年)を読む。20世紀初頭に起きた砂漠の民ベルベル人の白人に対する叛乱と、その血を引く現代に生きる少女の遍歴を交差させながら紡がれていくこの物語は、神話的深みと、詩的なみずみずしさにあふれ、ル・クレジオの作品のなかでも特に評価が高い作品である。これを題材として、ル・クレジオという作家の世界観や文学の特徴を考えていきたい。

### 到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析してそれを説得的に他者に伝えることができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	作家および作品についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第15回	まとめ
第16回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(24)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(25)
第29回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(26)
第30回	総括

### 授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

### 授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自にテキストを分担してもらいながら授業を進める。単なる訳読ではなく、担当した箇所や分析やコメントを求めるため、必要に応じてテキスト外の資料も参照することとなるだろう。最終的には各々の関心のある観

点からレポートをまとめてもらう。

### **使用言語**

日本語

### **準備学習(予習・復習)**

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

### **成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

### **成績評価コメント**

上記の割合はあくまで目安である。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

### **教科書**

Désert : folio, Le Clézio, Gallimard, 9782070376704

### **カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



講義コード	M360202102	科目ナンバリング	136F103
講義名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
英文科目名	Studies in French Literature		
担当者名	鈴木 啓二		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 金曜日 3時限 仏文院生室		

## 授業概要

ボードレール『パリの憂鬱』を読む

ボードレールの散文詩集『パリの憂鬱』の諸詩篇を、それらをめぐる最近の論文と合わせて読みながら、この詩集が内包する複数の射程(美学的、宗教的、政治的射程)について考察する。

扱う予定の論文は以下の通り(講読する論文及び、講読の順序について、変更する可能性がある)。

1. Steve Murphy, 《Eclats de voies et osmazômes pour Le Spleen de Paris》, in Lectures du Spleen de Paris, Presses Universitaires de Rennes, 2014, p.9-20.
  2. Aurélie Foglia, 《‘L’impersonnalité volontaire’ dans les Petits poèmes en prose》 in Lire Le Spleen de Paris de Baudelaire, PUPS Maison de la Recherche Université Paris-Sorbonne, 2014, p. 47-60.
  3. Edward K. Kaplan, 《Une lecture éthique du Spleen de Paris comme clef des Fleurs du mal, in Lire Le Spleen de Paris de Baudelaire, PUPS Maison de la Recherche Université Paris-Sorbonne, 2014, p. 69-78.
  4. Jean-Michel Gouvard, 《Sur les notions d’égalité, de fraternité et de citoyenneté dans Le Spleen de Paris》, in Lectures du Spleen de Paris, Presses Universitaires de Rennes, 2014, p.297-306.
  5. Alain Vaillant, 《Le Spleen du critique》 in Lectures du Spleen de Paris, Presses Universitaires de Rennes, 2014, p.41-50.
  6. Steve Murphy, 《Assomons les pauvres ! Le démon du combat》, Logiques du dernier Baudelaire, Champion, 2007, ch. XIII, p.393-432.
- 授業では、随時、学生による研究発表も行う。

## 到達目標

ボードレールの散文詩が切り開いた地平がどのようなものであったかを、各自の関心に即して把握できるようになること

## 授業内容

実施回	内容
第1回	1 学期全体についての説明
第2回	『パリの憂鬱』の現代的意味(1)
第3回	『パリの憂鬱』の現代的意味(2)
第4回	『パリの憂鬱』の現代的意味(3)
第5回	学生による研究発表 第一回
第6回	『パリの憂鬱』における話者の非人称性(1)
第7回	『パリの憂鬱』における話者の非人称性(2)
第8回	『パリの憂鬱』における話者の非人称性(3)
第9回	学生による研究発表 第二回
第10回	『パリの憂鬱』の政治的射程(1)
第11回	『パリの憂鬱』の政治的射程(2)
第12回	『パリの憂鬱』の政治的射程(3)
第13回	『パリの憂鬱』の政治的射程(4)
第14回	授業のまとめ、授業の総括
第15回	振り返り、到達度確認、等
第16回	2 学期全体についての説明
第17回	散文詩「貧乏人を撲り倒そう!」政治的読解 (1)
第18回	散文詩「貧乏人を撲り倒そう!」政治的読解 (2)
第19回	散文詩「貧乏人を撲り倒そう!」政治的読解 (3)
第20回	散文詩「貧乏人を撲り倒そう!」政治的読解 (4)
第21回	学生による研究発表 第三回
第22回	『パリの憂鬱』の倫理的・宗教的射程 (1)
第23回	『パリの憂鬱』の倫理的・宗教的射程 (2)
第24回	『パリの憂鬱』の倫理的・宗教的射程 (3)
第25回	学生による研究発表 第四回
第26回	『パリの憂鬱』の美学的射程 (1)
第27回	『パリの憂鬱』の美学的射程 (2)
第28回	『パリの憂鬱』の美学的射程 (3)
第29回	授業のまとめ、授業の総括

**授業方法**

講義、テキスト講読、学生による研究発表

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

講読するテキスト、授業で配布する日本語によるレジュメなどは事前に読んでおくこと。フランス語テキストの事前準備に際しては、仏和辞典だけでなく、仏仏辞典(Grand Robert, Grand Larousse, TLFなど)にもあたること。なお、第一回授業において、辞書についての説明を行う。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

**成績評価コメント**

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

授業中に、発表に対するコメントの形で行う

**教科書コメント**

Baudelaire, Le Spleen de Parisの原書については、授業開始時まで各自、web、書店等で購入しておくこと。基本的にどの版でも構わないが、可能であれば、注が豊富な次の版が望ましい。Baudelaire, Le Spleen de Paris Petits poèmes en prose, collection "Le livre de poche", Édition présentée et annotée par Jean-Luc Steinmetz. それ以外の教材については、各学期第一回目にコピーを配布する。

**カリキュラムマップ**

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360300101	科目ナンバリング	136F104
講義名	○◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	DELEMAZURE, Raoul		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 仏文院生室.第1学期 火曜日 5時限 仏文院生室		

### 授業概要

écriture académique en français et méthodologie de la recherche

### 到達目標

Ce cours a pour objectif de progresser dans les exercices d'écriture académique en français, l'explication de texte, la dissertation, le résumé, ainsi que de voir différents points de théorie de la littérature.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Méthode de l'explication de texte.
第2回	Rimbaud, Sensation.
第3回	Rimbaud, Sensation (suite)
第4回	Baudelaire, Parfum exotique.
第5回	Baudelaire, Parfum exotique (suite)
第6回	Laclos, Les Liaisons dangereuses.
第7回	Laclos, Les Liaisons dangereuses (suite)
第8回	Duras, L'Amant
第9回	Duras, L'Amant (suite)
第10回	Raymond Queneau, Exercices de style
第11回	Raymond Queneau, Exercices de style (suite)
第12回	Camus, Le Premier homme.
第13回	Camus, Le Premier homme.
第14回	Jean-Jacques Rousseau, Les Confessions
第15回	Jean-Jacques Rousseau, Les Confessions (suite)
第16回	Méthode de la dissertation.
第17回	Première dissertation (faire un plan)
第18回	Première dissertation (faire un plan)
第19回	Deuxième sujet de dissertation (faire une introduction)
第20回	Deuxième sujet de dissertation (faire une introduction)
第21回	Troisième dissertation (rédiger un paragraphe)
第22回	Troisième dissertation (rédiger un paragraphe)
第23回	Quatrième dissertation (faire une transition)
第24回	Quatrième dissertation (faire une transition)
第25回	Cinquième introduction (améliorer la présentation des exemples)
第26回	Cinquième introduction (améliorer la présentation des exemples)
第27回	Sixième dissertation (rédiger une conclusion)
第28回	Sixième dissertation (rédiger une conclusion)
第29回	préparation de la dissertation finale.
第30回	Correction de la dissertation finale.

### 授業方法

Nous travaillons ensemble pour améliorer les productions écrites.

### 使用言語

日本語・英語以外

### 準備学習(予習・復習)

Chaque semaine il faut préparer le cours (lire le texte, chercher des exemples pour la dissertation) et participer activement en classe.

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

A la fin du premier semestre, il faut rédiger un commentaire de texte.

A la fin du second semestre, il faut rédiger (en partie) une dissertation.

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les cours 15 et 30 seront la correction en classe des rapports de fin de semestre.

#### その他

Les textes seront distribués en classe.

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360300102	科目ナンバリング	136F104
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 4時限 北1-201		

### 授業概要

フランス語で書かれた言語学関連の論文を読むことで、論文フランス語に慣れると同時に、言語学の第一歩となるような視点を養う。今年度は、主として語用論的な視点から日常を取り巻く言語の考察を深めたい。

### 到達目標

論文フランス語を通してフランス語の知識を増やすこと、書き言葉のフランス語に慣れること、フランス語らしいフランス語が書けるようになること、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日常を取り巻く言語について(1)
第3回	日常を取り巻く言語について(2)
第4回	日常を取り巻く言語について(3)
第5回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(1)
第6回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(2)
第7回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(3)
第8回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(4)
第9回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(5)
第10回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(6)
第11回	発表(1)
第12回	発表(2)
第13回	発表(3)
第14回	授業の総括
第15回	予備日
第16回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(1)
第17回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(2)
第18回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第19回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第20回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第21回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第22回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第23回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第24回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(7)
第25回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(8)
第26回	発表(1)
第27回	発表(2)
第28回	発表(3)
第29回	授業の総括
第30回	予備日

### 授業方法

一方的な講義ではなく、参加者との議論を交えて授業を進めていく。またフランス語で書かれた論文を精読することで、考察を深めると同時に、論文フランス語のスタイルに慣れ、かつフランス語での読解力を養うことを目標とする。定期的に参加者の発表を予定しているため、積極的に議論に参画し、かつ言語調査をする意欲を持っていることが望まれる。参加者の興味によっては、柔軟に授業の内容を変更することもあるので、各自興味と意欲を持って授業に臨んでほしい。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

論文の担当箇所を調べるだけでなく、論文全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては、コメント、返却する。

### 教科書コメント

授業で講読する論文は、授業中に指示する。

### 参考文献

Quand dire, c'est faire, J.L. Austin, Éditions du Seuil, 1970

Les actes de langage dans le discours, C. Kerbrat-Orecchioni, Armand Colin, 2008

Politeness, Brown & Levinson, Cambridge, 1987

Langage et discours, P. Charaudeau, Hachette université, 1983

Les phrases sans texte, D. Maingueneau, Armand Colin, 2012

### 参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360301101	科目ナンバリング	136F105
講義名	◆フランス文学演習(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
英文科目名	Seminar in French Literature		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 水曜日 3時限 仏文院生室		

### 授業概要

フランス世紀末文学を代表する作家のひとりロートレアモンの『マルドロールの歌』を読みます。

### 到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、さまざまな解釈の広がり把握します。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト読解
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	いままでの内容確認
第17回	テキスト読解
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

### 授業方法

各人が章毎に分担し、訳読と解釈を行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指名された箇所は、各版の注など読み込み、どのような解釈が可能か説明できるようにする。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等)70%(出席、聴講態度重視) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。レポート30%。  
この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の発表内容をまとめたもの(配布資料含む)をレポートとする。

#### 教科書

OEUVRE COMPLETE:COLLECTION POESIE,LAUTREAMONT,GALLIMARD,1973,978207032004

#### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

#### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>



講義コード	M360301102	科目ナンバリング	136F105
講義名	◆フランス文学演習(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	クレビヨン・フィス『心と精神の惑い』をよむ		
英文科目名	Seminar in French Literature		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 金曜日 4時限 仏文院生室		

### 授業概要

クレビヨン・フィス『心と精神の惑い』(1736, 1738)を取り上げ、18世紀フランスのリベルタン小説の、ひいてはフランスの恋愛心理小説の流れを踏まえながら読解する。

### 到達目標

作品の背景や、言葉の綾を理解しながら、『心と精神の惑い』のテキストを理解し、分析できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	作品の冒頭部について
第3回	訳読と分析
第4回	同上
第5回	同上
第6回	同上
第7回	同上
第8回	同上
第9回	同上
第10回	同上
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	訳読と分析
第17回	同上
第18回	同上
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	同上
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	同上
第29回	まとめ
第30回	自主研究

### 授業方法

担当者を決めて、抜粋箇所の訳読と分析を行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

あらかじめテキストを読み、分からない単語などを調べておく。  
発表担当者はレジュメを準備する。

### 成績評価の方法・基準

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。受講者の数などによって変更することがある。  
この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、コメントを付して返却する。

### 教科書

Les Egarements du cœur et de l'esprit, Crébillon fils, Gallimard, 9782070368914

### カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>